

「人と情報のエコシステム」領域の目指す社会像

目指す社会像

情報技術と人間のなじみがとれた社会
＝「人と情報のエコシステム」

目指す社会に
必要なこと

共進化プラットフォームが技術開発や技術の社会適応への適切なハンドルとして機能し、
情報技術のメリットが最大化され、負のリスクが低減される

その後の取組み

情報技術がもたらしうる変化(正負両面)の特定と、それを
技術や制度に反映させる共進化プラットフォームが定着

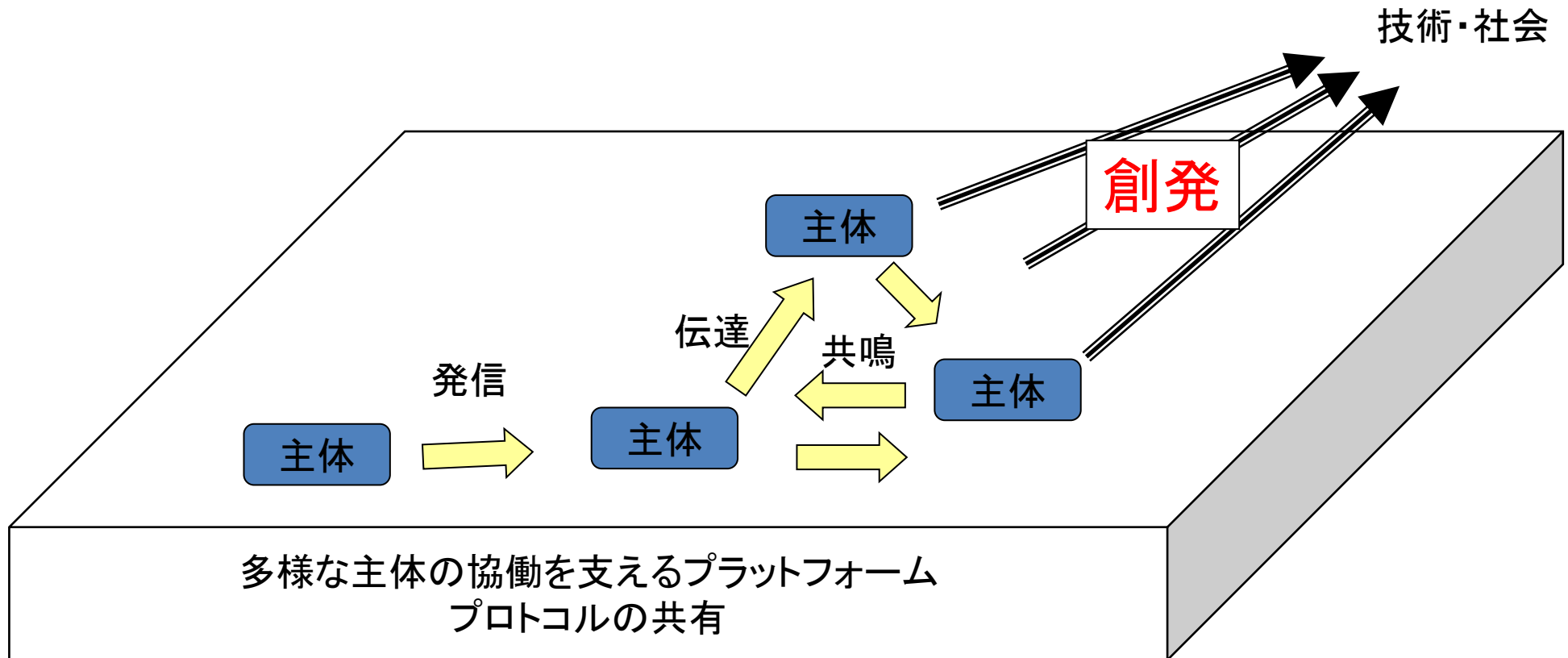
領域活動
(6年)

情報技術と人間のなじみがとれている社会を目指すために、
情報技術がもたらすメリットと負のリスクを特定し、
技術や制度へ反映していくための共進化プラットフォームが形成

エコシステム：・動植物の食物連鎖や物質循環といった生物群の循環系・生態系(Wikipedia)
・つながり・助け合う、共存共栄(英和辞書)

共進化プラットフォーム設計上の留意点

プラットフォーム(協働の基盤)設計を通じた創発的な技術と社会の進化



特定の帰結を予め計画できるわけではない⇒だからこそ不断の対話が必要

人間性を疎外しない 人間が中心

情報技術と人間のなじみが取れている社会

人間がコントロールする チョイスする 活躍する 心身ともに健康

社会規範の再検討

情報技術の進展に伴うさまざまなリスクが最小化できている

情報技術による恩恵が最大化できている

影響/変化/リスクの特定とそれを技術/施策に反映させる共進化プラットフォームの取組みが定着している

技術開発と産業応用が進展
サイエンス応用が進展
誰もが技術の恩恵を享受、格差がない
国際競争力があり、協調の中での発展している

テロや戦争に寄与しない
犯罪の防止・抑止
事故の防止・抑止・対処
プライバシーが適切に守られている
経済格差が広がらない・資本集中しない

効率的・効果的な資源配分
失業者が増えない・減る
スピーディな法制度改正の仕組みができていく
早急に柔軟に変化に対応する制度設計ができていく
施策がブレーキでなくハンドルとして機能

事前に技術のリスクとメリットを考慮する習慣
研究者が社会のことを考える習慣
人間とは何かを考える習慣
ユーザーが要求する習慣
作る側と使う側のDynamic Interactionができる

アルゴリズムの開示、情報トレーサビリティなどの進展
技術への要求仕様、対応技術開発が進む
ファンディングに常にアセスメント予算がつく
エンジニア育成・教育が進む
子供含む一般市民情報技術理解が進む
世界標準形成に貢献、リードしている
国・文化の違いを超えた進展

日本が技術の平和利用の国際的枠組みにおいて、先導的役割を果たしている
犯罪に対する法整備、技術への要求仕様、対応技術開発が進む
事故に関する法整備、要求仕様、対応技術開発が進む
AI憲章が検討され採用される
情報倫理ガイドラインが検討され採用され、改訂される
プライバシー関連の法整備、要求仕様、対応技術開発が進む
経済・財政政策の整備・対応が進む
労働政策の整備・対応が進む
社会保障、福祉制度の整備・対応が進む

独占が発生しない
労働市場の流動性形成

ガラパゴス化しない

共進化プラットフォームの取組みが継続している

影響/変化/リスクの特定とそれを技術/施策に反映させる共進化プラットフォームの始動

平和利用に関するガイドラインや提言
犯罪防止・対応ガイドラインや提言
事故防止・対応ガイドラインや提言
AI憲章プロトタイプ提示
情報倫理ガイドラインや提言
プライバシー対応ガイドラインや提言
経済政策に関する提言
労働市場変化に関する提言
社会保障、福祉政策に関する提言
スピーディな法制度改正の仕組みの提言
早急に柔軟に変化に対応する制度設計の提言
影響やリスクを過不足なく迅速に知る仕組みの提示
意見を言える・議論ができる場と仕組みの提示
多様な選択肢を検討・提示する仕組みの提示
要請に基づく制御技術や対応技術の開発
ソフトウェアの正当性の検証方法
さきがけ/CRES Tとの連携
シホジウム、ワークショップ
コミュニティ形成
技術教育、モラル教育
リテラシー教育
世界標準を意識した取組み
共同研究等の海外連携
社会の新しい規範や価値の提示

技術の平和利用
犯罪の防止・対応
事故の防止・対応
ロボット社会道徳、機械倫理
情報倫理
プライバシー対応
経済政策
労働市場予測、政策
社会保障、福祉政策
法制度改正の仕組み
変化に対応する制度設計
制御技術、対応技術
技術への要求仕様
ソフトウェアの検証、妥当性
エンジニア、研究者養成
子供、一般市民対象
国内外技術開発動向調査
国外政策・制度調査
海外連携
社会の規範・価値や思い込み・慣習等の再検討

B-2:倫理/哲学

B-3:経済/雇用

B-1:法律/制度

B-5:人間中心視点

B-4:教育

国際連携

変化やリスクの早い取り込み
変化やリスクを社会に伝える
多数の選択肢を示す
少数意見も反映する仕組み
技術者が気づいたリスクの共有
開発の上流段階から共有する
人間中心視点で捉える
社会の規範や価値の検討
スピード感ある対応/更新可能
ブレーキではなくハンドルとして機能する
海外連携/国際発信

A: 影響/変化/リスクの特定とそれを技術/施策に反映させる共進化プラットフォーム

目指す社会像 (2035年)

取組み (領域後)

領域でのアウトプット例 (2020年)

領域での取組みテーマ例